＜参考＞生きものの四季―東久留米市内、落合川・黒目川周辺で見られる野鳥からー

東久留米の生きものの四季を、野鳥を中心に考えてみましょう。

生きものの中でも鳥の仲間は、空中を飛び、空間を広く使える仲間です。鳥の声を聞かない日はないでしょう。それでは、どこにどのようにして住んでいるのか、姿はいつどこで見られるのでしょうか。野の鳥、野鳥は、子育てでは幼虫を中心にした昆虫を餌にしているものが多く、餌の多い春から夏にかけて、巣作りをして卵を産み、ひなを育てます。そのほか、水草、植物の花や実を食べるものも、動物食のものもいます。鳥は、多種の生きものに大きく影響しています。

＜東久留米の市の鳥「オナガ」＞

長い尾っぽに水色の翼、黒い帽子をかぶった鳥。電線によく止まっていてやかましく鳴き交わす鳥―それが「オナガ」です。この「オナガ」が東久留米の市の鳥です。

東久留米が畑と雑木林の村から街へ、そして雑木林が開墾されたくさんの団地ができて人口が急増して東洋一の団地街になり、1972 年に市制がしかれました。雑木林はなくなりましたが農家の裏山にあった「オナガ」の寝床となる竹林は健在でした。その時に「オナガ」が市の鳥になったのです。

なぜ市の鳥になったのか、それは第一に「オナガ」が集団生活を愛するとても仲の良い鳥だから、第二に庭の餌台で皆さんがあげるパンを集団で仲良く食べる。お互いに肩がぶつかってもけして喧嘩をしない仲の良い鳥だからです。

入学時期の４月ごろになると集団で巣作りを始めます。カラスが巣の中の卵を食べに来ると、周りにいた仲間の「オナガ」が助けに沢山集まり、みんなでカラスを追い払うのです。また「オナガ」は利口だから、ツミ（タカ）の力を借りるため、ツミの巣の周りに「オナガ」も巣を沢山つくるのです。お互いを外敵のカラスから守るためです。第三に「オナガ」は、人間と同じように、夫婦愛が非常に強い鳥で一生続くのです。

この様な理由で、東久留米市民にふさわしい鳥として「オナガ」は市の鳥として指定されたのです。そのほかに「オナガ」のねぐらとして利用されていた竹林が、農家の裏山には沢山あって「オナガ」の生活に適した環境があったからです。

「オナガ」は、東アジアと、イベリア半島（スペイン、ポルトガル）にいるのみで、カラスの仲間に分類されています。

東久留米の市の鳥「オナガ」

＜留鳥たち＞

東久留米市内で、2014 年から 2022 年までの９年間に、落合川・黒目川周辺の川沿いを中心に、雑木林、公園、畑、神社周辺や屋敷林などで見られた野鳥は、３８種でした。そのうち２４種は、一年のどの月にも見られています。一年中、日本に住んでいるので、留鳥と言われています。そのほかモズも留鳥で、山から里におりてくる冬だけ見られるので、留鳥は２５種で約６８％です。

川ぞいには体の大きな野鳥も多く、全部で 22 種類が見られ、魚や水草などの餌をとっています。川沿いだけでみられた１７種類のうち留鳥は１２種類で、日本国内で子育てをします。カルガモは、産卵子育ての様子がよく見られますが、そのほかの種類は、東久留米市内で子育てをしているのでしょうか。体が大きい種類は、空を高く飛び、地上のようすを見て、安全で餌の多いところを探しておりてくるようです。

また、スズメ、ヒヨドリ、オナガの３種類の留鳥は、観察した４種類の場所すべてで見られています。

カルガモ

キセキレイ

ダイサギ

カワウ

スズメ

カワセミ

シジュウカラ

モズ

ウグイス

東久留米市で見られる留鳥の例

＜夏鳥たち＞

夏鳥は、繁殖、子育てのために日本に渡ってきます。時期的には４月に渡ってきて、繁殖場所の森や雑木林探し、求愛行動により、オス、メスよい相手が見つかり夫婦が決まって巣作りを行い、抱卵するのです。もちろん鳥によって異なります。つがいで渡ってくる鳥、日本に来て相手を探す鳥など、鳥の種類によって異なります。日本に到来する途中で相手が見つかる鳥もいます。夏鳥は、日本より南方、東南アジアからやって来ます。

夏は、草木が茂り、鳥の声は聞こえても、姿は見つけにくい季節です。また、種類数も少なく、東久留米では、ツバメが、落合川・黒目川沿いと公園・畑で見られています。巣は人家に近いところでも作られます。ひなの声なども手掛かりになります。ぜひ、気をつけて探してみてください。

ツバメ

キビタキ

オオルリ

東久留米市で見られる夏鳥の例

＜冬鳥たち＞

落合川・黒目川沿いで見られた５種類、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、コガモ、タシギは、冬鳥です。夏には日本より北方の国で子育てをして、冬には寒さをしのぐために、日本に渡ってきます。

１１・１２月から２月の３・４ヶ月間を、日本で過ごします。草木の葉が枯れ、見通しのよい季節です。皆さんは防寒具を身につけ、じっくり観察してください。

１２月頃訪れた冬鳥たちは２月中に相手を見つけて３月に繁殖地に帰るのです。２月下旬になると冬鳥たちは、落合川や黒目川の上空を頻繁に飛んだり降りたりします。また、来年越冬のためにくるので、上空から地形や目印を覚えるのです。ただこれらの鳥たちも、毎年必ず飛来するとは限りません。

鳥の渡りには、その年の気象や近年の温暖化、東南アジアでの環境変化が大きく影響してきます。鳥たちほど気象条件、環境条件に敏感な生きものはほかにはいないともいえます。今年はどうなのか、と考えながら鳥たちを見てみましょう。

ルリビタキ

ジョウビタキ

オナガモ

東久留米市で見られる冬鳥の例

以下に、2014 年～2022 年における落合川・黒目川周辺の野鳥観察記録を掲載します。

2014 年～2022 年における落合川・黒目川周辺の野鳥観察記録

	確認種 ※背景の色 留鳥：白、夏鳥：青、冬鳥：赤	確認数（羽）	確認された月（2014 年～2022 年）												確認箇所			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	落合川・黒目川沿い・池	雑木林	公園・畑	神社周辺・屋敷林
1	アオサギ	39	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
2	ダイサギ	16	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
3	コサギ	200	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
4	チュウサギ	27	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
5	カワウ	39	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
6	ヒドリガモ	311	■	■									■	■	■			
7	マガモ	34	■	■									■	■	■			
8	アイガモ	54	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
9	オナガガモ	58	■	■										■	■			
10	カルガモ	1,019	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
11	コガモ	8	■	■										■	■			
12	ハクセキレイ	64	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	
13	キセキレイ	14	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
14	カワセミ	41	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
15	アカハラ	2	■	■										■		■		■
16	カラス	111	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■
17	キジバト	216	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	■	■
18	シジュウカラ	32	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■		■
19	スズメ	315	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
20	ツグミ	16	■	■										■		■	■	■
21	ヒヨドリ	405	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
22	ムクドリ	779	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■
23	モズ	13	■	■									■	■		■	■	
24	メジロ	26	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■		■
25	オナガ	87	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
26	ジョウビタキ	6	■	■										■		■		■
27	ツバメ	70						■	■	■					■		■	
28	アオジ	7	■	■										■		■		
29	ウグイス	1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■		■
30	ホオジロ	2	■	■									■	■		■		■
31	ワカケホンセイインコ	9	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■		■
32	コゲラ	1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■		■
33	センダイムシクイ	1						■	■	■						■		
34	カワラヒワ	5	■	■									■	■		■	■	
35	バン	2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
36	イソヒヨドリ	1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
37	タシギ	2	■	■										■	■			
38	ゴイサギ	1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
計		4,034																

出典：南沢水辺のいきもの研究会調査結果

また、以下に 1947 年～2014 年における東久留米市内の野鳥観察記録を掲載します。

1947 年～2014 年における東久留米市内の野鳥観察記録（1/3）

No.	種名	確認場所（出典）			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
1	カイツブリ			○	◎
2	ハジロカイツブリ				○
3	カンムリカイツブリ				◎
4	オオミズナギドリ			△	○
5	ハシボソミズナギドリ				
6	カワウ		◇	◎	◎
7	ヨシゴイ				○
8	ゴイサギ	□	◇	○	○
9	ササゴイ	□			△
10	アカガシラサギ				△
11	アマサギ				○
12	ダイサギ	□		◎	◎
13	チュウサギ	□			○
14	コサギ	□	◇	◎	◎
15	アオサギ	□		◎	◎
16	クロツラヘラサギ				△
17	オシドリ			△	○
18	マガモ		◇	○	◎
19	カルガモ	□	◇	◎	◎
20	コガモ	□	◇	○	◎
21	トモエガモ				△
22	ヨシガモ			△	○
23	オカヨシガモ				○
24	ヒドリガモ		◇	◎	◎
25	アメリカヒドリ				
26	オナガガモ		◇	◎	◎
27	シマアジ				
28	ハシビロガモ		◇	△	◎
29	ホシハジロ				◎
30	キンクロハジロ		◇		◎
31	スズガモ				◎
32	ホオジロガモ				△
33	ミコアイサ				△
34	ウミアイサ				
35	ミサゴ				○
36	ハチクマ	□			
37	トビ	□	◇		○
38	オオタカ		◇	△	○
39	ツミ		◇	○	○
40	ハイタカ	□		△	○

No.	種名	確認場所（出典）			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
41	ノスリ	□		△	○
42	サシバ	□			○
43	ハイイロチュウヒ				
44	チュウヒ				△
45	ハヤブサ				○
46	チゴハヤブサ				
47	チョウゲンボウ		◇	△	○
48	ウズラ				
49	ヤマドリ				
50	キジ		◇		○
51	クイナ			△	○
52	ヒクイナ	□		△	
53	シロハラクイナ				△
54	バン		◇	△	◎
55	オオバン			△	◎
56	タマシギ				△
57	ミヤコドリ				◎
58	コチドリ	□		○	◎
59	イカルチドリ				○
60	シロチドリ				○
61	メダイチドリ				◎
62	オオメダイチドリ				△
63	ムナグロ				○
64	ダイゼン				◎
65	ケリ				△
66	タゲリ				△
67	キョウジョシギ				◎
68	ヨーロッパトウネン				
69	トウネン				◎
70	ヒバリシギ				
71	ハマシギ				◎
72	サルハマシギ				△
73	コオバシギ				△
74	オバシギ				○
75	ミユビシギ				◎
76	エリマキシギ				△
77	キリアイ				△
78	オオハシシギ				△
79	ツルシギ				
80	アカアシシギ				△

記号	表の色	色分けの意味
A	黄色	出典①～③で共通して見られる種（過去から継続して見られる種）
B	緑色	出典①あるいは②のうち③では見られない種（1993以前は見られたが、今はほとんど見られない種）
C	青色	出典②あるいは③では見られるが①では見られない種（1977年以前は見られなかったが、最近は見られる種）

1947 年～2014 年における東久留米市内の野鳥観察記録（2/3）

No.	種名	確認場所（出典）			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
81	コアオアシシギ				○
82	アオアシシギ				◎
83	クサシギ				△
84	タカブシギ				
85	キアシシギ				◎
86	イソシギ				◎
87	ソリハシシギ				○
88	オグロシギ				○
89	オオソリハシシギ				◎
90	ダイシャクシギ				○
91	ホウロクシギ				○
92	チュウシャクシギ				◎
93	ヤマシギ	□			○
94	タシギ			○	◎
95	オオジシギ				
96	セイタカシギ				◎
97	ユリカモメ	□	◇	△	◎
98	セグロカモメ				○
99	オオセグロカモメ				○
100	シロカモメ				
101	カモメ				
102	ウミネコ				◎
103	ズグロカモメ				△
104	ミツユビカモメ				
105	クロハラアジサシ				△
106	アジサシ				○
107	コアジサシ				◎
108	シラコバト				△
109	キジバト	□	◇	◎	◎
110	アオバト	□	◇		○
111	カッコウ	□	◇	△	○
112	ツツドリ	□	◇		○
113	ホトトギス	□	◇		○
114	トラフズク				△
115	コミミズク				△
116	コノハズク				△
117	アオバズク	□	◇	△	○
118	フクロウ				○
119	ヨタカ	□			
120	ヒメアマツバメ				○

No.	種名	確認場所（出典）			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
121	アマツバメ	□	◇		△
122	ヤマセミ				△
123	アカショウビン	□	◇		
124	カワセミ	□	◇	◎	◎
125	ブッポウソウ				
126	アリスイ				△
127	アオゲラ		◇	○	○
128	アカゲラ			△	○
129	コゲラ		◇	◎	◎
130	ヒバリ	□	◇		○
131	ショウドウツバメ				
132	ツバメ	□	◇	◎	◎
133	コシアカツバメ				△
134	イワツバメ		◇	△	○
135	ツメナガセキレイ				
136	キセキレイ	□	◇	◎	◎
137	ハクセキレイ	□	◇	◎	◎
138	セグロセキレイ	□	◇	◎	◎
139	ビンズイ	□	◇	△	○
140	タヒバリ	□	◇	○	◎
141	サンショウクイ	□			
142	ヒヨドリ	□	◇	◎	◎
143	モズ	□	◇	◎	◎
144	キレンジャク				△
145	ヒレンジャク				△
146	カワガラス				△
147	ミソサザイ	□	◇	△	△
148	カヤクグリ				△
149	コマドリ	□			△
150	ルリビタキ	□	◇	○	◎
151	ジョウビタキ	□	◇	◎	◎
152	ノビタキ				○
153	イソヒヨドリ				△
154	トラツグミ	□	◇	△	○
155	マミジロ				△
156	クロツグミ	□			△
157	アカハラ	□	◇	△	○
158	シロハラ	□	◇	○	◎
159	マミチャジナイ				
160	ツグミ	□	◇	◎	◎

記号	表の色	色分けの意味
A	黄色	出典①～③で共通して見られる種（過去から継続して見られる種）
B	緑色	出典①あるいは②のうち③では見られない種（1993以前は見られたが、今はほとんど見られない種）
C	青色	出典②あるいは③では見られるが①では見られない種（1977年以前は見られなかったが、最近は見られる種）

1947 年～2014 年における東久留米市内の野鳥観察記録（3/3）

No.	種名	確認場所（出典）			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
161	ヤブサメ	□			
162	ウグイス	□	◇	◎	◎
163	コヨシキリ				△
164	オオヨシキリ	□	◇	△	◎
165	メボソムシクイ	□	◇		
166	センダイムシクイ	□	◇		○
167	キクイタダキ	□	◇	△	△
168	セッカ	□			○
169	キビタキ	□	◇	△	◎
170	オオルリ	□	◇	△	○
171	サメビタキ				
172	エゾビタキ	□	◇	○	◎
173	コサメビタキ	□		△	○
174	サンコウチョウ	□	◇	△	○
175	エナガ	□		◎	◎
176	ツリスガラ				
177	コガラ		◇		△
178	ヒガラ	□	◇	△	△
179	ヤマガラ	□	◇	○	◎
180	シジュウカラ	□	◇	◎	◎
181	ゴジュウカラ				
182	メジロ	□	◇	◎	◎
183	ホオジロ	□	◇	△	○
184	コジュリン				
185	カシラダカ	□	◇	△	○
186	ミヤマホオジロ				△
187	アオジ	□	◇	○	◎
188	クロジ	□	◇	△	△
189	オオジュリン				○
190	アトリ	□		△	○
191	カワラヒワ	□	◇	◎	◎
192	マヒワ	□			○
193	ハギマシコ				
194	イスカ				
195	ベニマシコ				○
196	ウソ	□			○
197	コイカル				△
198	イカル	□	◇		○
199	シメ	□	◇	○	◎
200	スズメ	□	◇	◎	◎

No.	種名	確認場所（出典）			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
201	コムクドリ	□			○
202	ムクドリ	□	◇	◎	◎
203	カケス	□	◇	△	○
204	オナガ	□	◇	◎	○
205	ハシボソガラス	□	◇	◎	◎
206	ハシブトガラス	□	◇	◎	◎
207	オオコノハズク	□	◇		
208	チゴモズ	□			
209	アカモズ	□			
210	ノゴマ	□	◇		
211	コルリ	□			
212	ベニヒワ	□			
213	ヤツガシラ		◇		
214	エゾムシクイ		◇		

番外

215	コジュケイ	□	◇	△	◎
216	ドバト		◇	◎	◎
217	ワカケホンセイインコ		◇	◎	○
218	ガビチョウ			△	◎
219	ソウシチョウ			△	◎
220	アヒル			◎	◎
221	バリケン		◇		

出典ごとの総確認種数

合計	出典			
	市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
	87	80	82	179

出典③、④による確認種数と確認の頻度

凡例	確認頻度	出典			
		市内（①）	市内（②）	市内（③）	近郊（④）
◎	よく見る	-	-	31	69
○	時々見る	-	-	15	65
△	ごく稀に見る	-	-	36	45

記号	表の色	色分けの意味
A	黄色	出典①～③で共通して見られる種（過去から継続して見られる種）
B	緑色	出典①あるいは②のうち③では見られない種（1993以前は見られたが、今はほとんど見られない種）
C	青色	出典②あるいは③では見られるが①では見られない種（1977年以前は見られなかったが、最近は見られる種）

【出典】番号は表中の「確認場所（出典）」に対応します。

①「東久留米の野鳥」吉良幸世著、東久留米市教育委員会

②「東久留米の野鳥 1994」吉良幸世著、東久留米市教育委員会

③「野鳥は友だち　HBWS 探鳥会観察記録」東久留米バードウォッチングの会編集、東久留米バードウォッチングの会

④　③に同じ